

<u>CLASSE:</u>	<b>文学講読 プルーストを読む LePS-61</b>
<u>Jour:</u>	<b>土曜日</b>
<u>Horaire:</u>	<b>13:30-15:20</b>
<u>Niveau:</u>	<b>B1</b>
<u>M./Mme:</u>	<b>M. Satoshi FUKUYAMA</b>
<u>Objectifs:</u>	フランス20世紀文学の最高峰に位置するプルーストの作品を、じっくり読み解いていきたいと思えます。 作品の全体に配慮しながら、全部を読み上げることを目標にしています。
<u>Descriptif:</u>	<p>第2巻『花咲く乙女たちのかげに』の第1部「スワン夫人をめぐる」を継続して読みます。</p> <p>ノルポワ氏をはじめ自宅に招いた晩餐会も終わって、場面は新年あけてシャンゼリゼの公園でジルベルトとの待ちに待った再会をはたします。室内から室外への解放感だけではなく、ジルベルトへのつのる恋心と思春期特有のこじれた劣情がおもな読みどころとなります。</p> <p>授業は日本語でおこないます。事前にお当てしておいた生徒さんに訳していただきながら、みなさんとともにあれこれと考えていくスタイルをとっています。プルーストの思想と文章を形作ったさまざまな歴史的な背景、文化要素を抽出していくことにも意を用いています。</p> <p>こころざし高く『失われた時を求めて』にチャレンジしても、第1巻で挫折したというのは、もはやプルーストあるあるといってもよいでしょう。第2巻『花咲く乙女たちのかげに』の興味深い箇所にはさしかかります。新規に参加するにはちょうどよいかもしれません。『失われた時を求めて』は、じっくり読めば読むほど持続して読める作品です。教室もアットホームな雰囲気です。この未知のゾーンをいっしょに体験してみませんか？これを機にぜひご参加を、お待ちしております。</p>
<u>Matériel:</u>	<b>Marcel Proust : <i>A la Recherche du temps perdu</i>, Gallimard, Pléiade (プリント配布)</b>
<u>Remarques:</u>	